

28.8.2 スクリーンショット

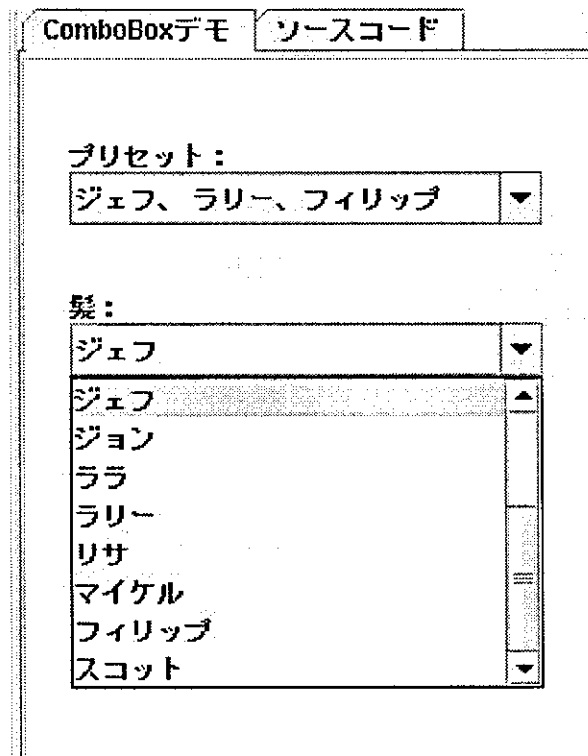


図 28.6 JComboBox の実行例 (SwingSet2 の実行画面より)

28.9 HTML: <SELECT>

28.9.1 説明

<SELECT> タグはセレクトボックスを作成する。

28.10 XForms: <xforms:select appearance="minimal">, <xforms:select1 appearance="minimal">

28.10.1 説明

<xforms:select>タグはフォーム上の複数選択フィールドを想定したタグである。選択項目には<xforms:choices>タグを使用する。<xforms:select1>タグはフォーム上の単一選択フィールドを想定したタグである。選択項目には<xforms:choices>タグを使用する。ただし、これを一般に言うリストボックスで表現するかどうかは実装者の解釈に依存する。

ただし、これを一般に言うコンボボックスで表現するかどうかは実装者の解釈に依存する。Chiba では、<xforms:select1 appearance="minimal"> とすると、単一選択可能なコンボボックスに、<xforms:select appearance="minimal"> とすると、複数選択可能なコンボボックスになる。

28.10.2 スクリーンショット


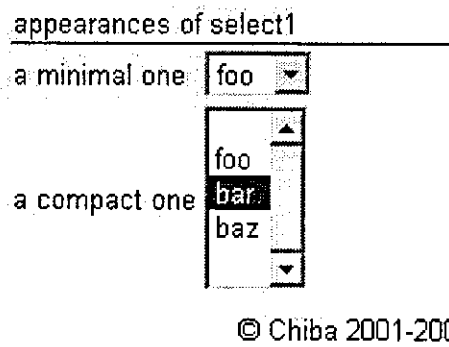
 Chiba

図 28.7 <xforms:select1>の実行例 (Chiba のサンプル実行画面より)

第 29 章

ドメインアップダウンコントロール

29.1 概要

プラットフォーム	ツールキット	コントロール
Windows	Windows Controls .Net Windows Forms Visual Basic 6	Up-Down DomainUpDown UpDown
Mac OS X	Carbon Cocoa	
X11R6	GTK+ GNOME Qt KDE	
Java	AWT Swing SWT	
Mozilla	Gecko	
Web	HTML XForms	

29.2 Windows Controls: Up-Down

29.2.1 説明

アップダウンコントロールは、値の増減が可能な上下の矢印がついたコントロールで、一緒に動くコントロールのスクロール位置や数値表示を変更できる。

29.3 .NET: DomainUpDown

29.3.1 説明

DomainUpDown コントロールは、ユーザーが上下の矢印ボタンを使用してスクロールできる、テキスト項目の一覧を表示する。

以下、.NET Framework 開発者ガイドより抜粋。

Windows フォームの `DomainUpDown` コントロールの外観は、テキスト ボックスと、リストの項目を上下に移動するための矢印で構成されています。このコントロールでは、選択肢のリストから 1 つの文字列を表示したり設定したりします。ユーザーは、上下矢印ボタンをクリックするか、方向キーを押すことで、リストの項目を選択できます。また、リスト項目と一致する文字列を直接入力することもできます。このコントロールでは、アルファベット順のリストで項目を選択できます。リストを並べ替えるには、`Sorted` プロパティに `true` を設定します。このコントロールの機能はリスト ボックスやコンボ ボックスによく似ていますが、このコントロールではわずかなスペースしか使用しません。

29.4 Visual Basic 6: UpDown

29.4.1 説明

UpDown コントロールは、対になった 2 つの矢印ボタンが入ったコントロールである。

第 30 章

数値アップダウンコントロール

30.1 概要

数値アップダウンコントロールは、ユーザーが上下の矢印ボタンを使用して値を増減できるユーザーインタフェース要素である。

プラットフォーム	ツールキット	コントロール
Windows	Windows Controls .Net Windows Forms Visual Basic 6	Up-Down NumericUpDown UpDown
Mac OS X	Carbon Cocoa	
X11R6	GTK+ GNOME Qt KDE	GtkSpinButton QSpinBox KIntSpinBox KDoubleSpinBox KIntNumInput KDoubleNumInput
Java	AWT Swing SWT	
Mozilla	Gecko	
Web	HTML XForms	

30.2 Windows Controls: Up-Down

30.2.1 説明

アップダウンコントロールは、値の増減が可能な上下の矢印がついたコントロールで、一緒に動くコントロールのスクロール位置や数値表示を変更できる。

30.3 .NET: NumericUpDown

30.3.1 説明

NumericUpDown コントロールは、ユーザーが上下の矢印ボタンを使用してスクロールできる、数値の一覧を表示する。

以下、.NET Framework 開発者ガイドより抜粋。

Windows フォームの NumericUpDown コントロールの外観は、テキスト ボックスと、数値を変更するための矢印で構成されています。このコントロールでは、選択肢のリストから 1 つの数値を表示したり設定したりします。ユーザーは、上下矢印ボタンをクリックするか、方向キーを押すことで、数値を増加または減少できます。また、数字を直接入力することもできます。上方向キーをクリックすると最大値を上限に値が増加し、下方向キーをクリックすると最小値を下限に値が減少します。このコントロールは、ミュージック プレーヤーのボリューム コントロールなどに使用すると便利です。NumericUpDown コントロールは、Windows コントロール パネルのいくつかのアプリケーションで使われています。

30.4 Visual Basic 6: UpDown

30.4.1 説明

UpDown コントロールは、対になった 2 つの矢印ボタンが入ったコントロールである。

30.5 GTK+: GtkSpinButton

30.5.1 説明

スピン・ボタンは、ユーザがある範囲から一つの数値を選択できるようにするために使用する。このユーザーインターフェース要素には、テキスト・エントリ・ボックスとその横に上向きと下向きのアロー・ボタンがある。アロー・ボタンの一つをクリックすると、取り得る値の範囲内で数値が上下する（スロットマシンの様に数字が上下する）。また、エントリ・ボックスに直接値を入力することもできる。

30.5.2 スクリーンショット

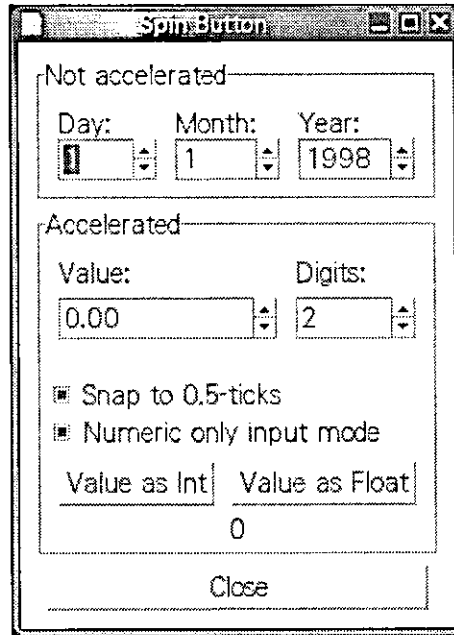


図 30.1 GtkSpinButton の実行例 (GTK+ 2.0 チュートリアルより)

30.6 Qt: QSpinBox

30.6.1 説明

QSpinBox を使うとユーザーは up/down ボタンをクリックして表示されている値を増減させ値を選択することができる。通常、スピンボックスの値は整数である。

QSpinBox はまた、スピンボックス、アップダウン、リトルアロー、スピンボタンなどとも呼ばれる。

30.6.2 スクリーンショット

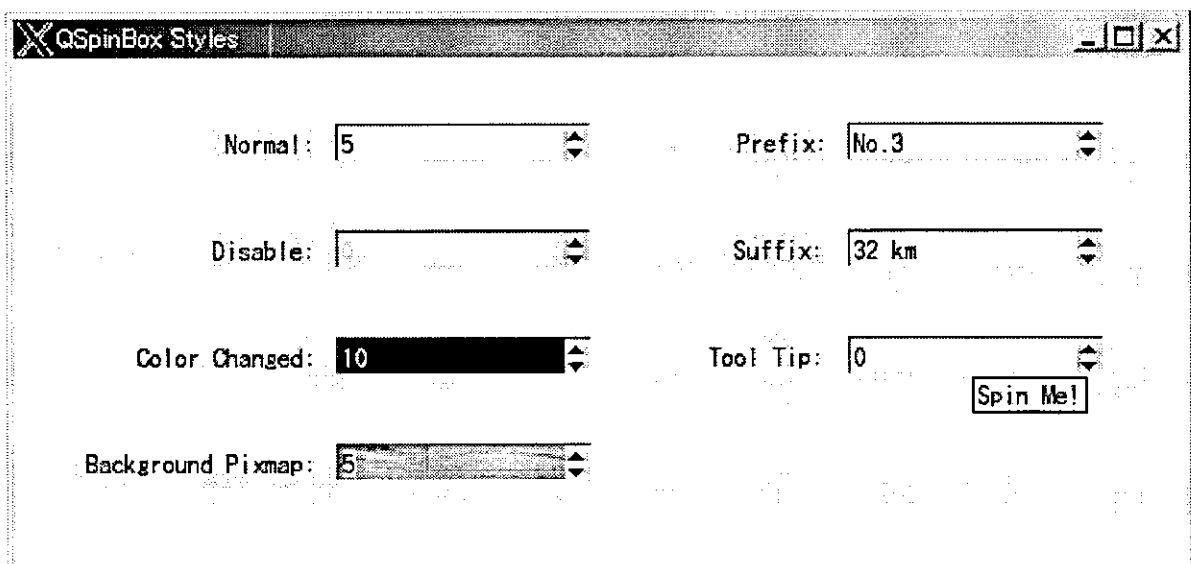


図 30.2 QSpinBox の実行例

30.7 KDE: KIntSpinBox, KDoubleSpinBox, KIntNumInput, KDoubleNumInput

30.7.1 説明

KIntSpinBox, KDoubleSpinBox, KIntNumInput, KDoubleNumInput は KDE 用に高機能化した QSpinBox のバリエーションである。

30.7.2 スクリーンショット

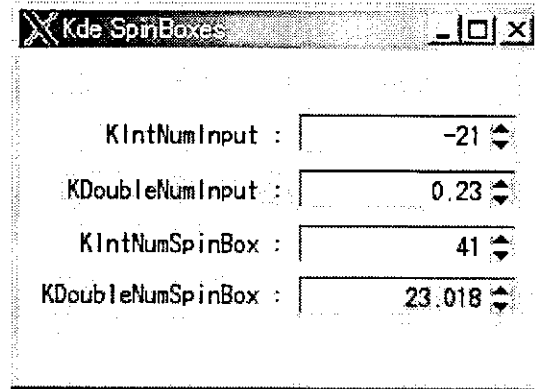


図 30.3 KIntSpinBox などの実行例

第 31 章

リストボックス

31.1 概要

プラットフォーム	ツールキット	コントロール
Windows	Windows Controls	List Box
	.Net Windows Forms	ListBox
	Visual Basic 6	ListBox
Mac OS X	Carbon	
	Cocoa	
X11R6	GTK+	GtkList
		GtkCList
	GNOME	
	Qt	QListBox
	KDE	KListBox KEditListBox
Java	AWT	
	Swing	JList
	SWT	
Mozilla	Gecko	nsListBox
Web	HTML	
	XForms	<xforms:select appearance="compact"> <xforms:select1 appearance="compact">

31.2 Windows Controls: ListBox

31.2.1 説明

List box コントロールは、リストを表示し、そこからユーザーがひとつ以上の項目を選択することができる。

31.3 .NET: ListBox

31.3.1 説明

テキスト項目およびグラフィカル項目 (アイコン) の一覧を表示する。

以下、.NET Framework 開発者ガイドより抜粋。

Windows フォーム `ListBox` コントロールを使用すると、項目のリストが表示され、ユーザーは 1 つ以上の項目を選択できます。項目の合計数が表示限度を超えた場合は、`ListBox` コントロールにスクロールバーが自動的に追加されます。`MultiColumn` プロパティを `true` に設定した場合は、項目が複数列で表示され、水平スクロールバーが表示されます。`MultiColumn` プロパティを `false` に設定した場合は、項目が単一列で表示され、垂直スクロールバーが表示されます。`ScrollAlwaysVisible` を真 (`true`) に設定している場合は、項目数に関係なくスクロールバーが表示されます。`SelectionMode` プロパティでは、一度に選択できるリスト項目の数を指定します。

`SelectedIndex` プロパティは、リストボックス内で最初に選択した項目に対応する整数値を取得します。コードの `SelectedIndex` 値を変更することによって、選択した項目をプログラムで変更できます。リスト内の対応する項目が、Windows フォーム上に強調表示されます。選択項目がない場合、`SelectedIndex` 値は `-1` となります。リストの最初の項目を選択した場合、`SelectedIndex` 値は `0` となります。複数の項目が選択されている場合、`SelectedIndex` 値は、リストの最上位に表示される選択項目を表します。`SelectedItem` プロパティは `SelectedIndex` に似ていますが、項目自体 (通常は文字列値) を取得する点が `SelectedItem` プロパティとは異なります。`Items.Count` プロパティは、リスト内の項目数を表します。`SelectedIndex` はゼロから始まるため、`Items.Count` プロパティの値は、`SelectedIndex` の最大値よりも常に 1 大きくなります。

`ListBox` コントロールの項目を追加または削除するには、`Items.Add`、`Items.Insert`、`Items.Clear`、または `Items.Remove` メソッドを使用します。デザイン時に `Items` プロパティを使用して、リストに項目を追加することもできます。

31.4 Visual Basic 6: ListBox

31.4.1 説明

`ListBox` は、選択肢の一覧を表示し、ユーザーがその中から 1 つまたは複数の項目を選択できる。

31.5 GTK+: GtkList, GtkCList

31.5.1 説明

`GtkList` は選択可能なアイテムのリストをパッキングするユーザーインターフェース要素である。

31.5.2 スクリーンショット

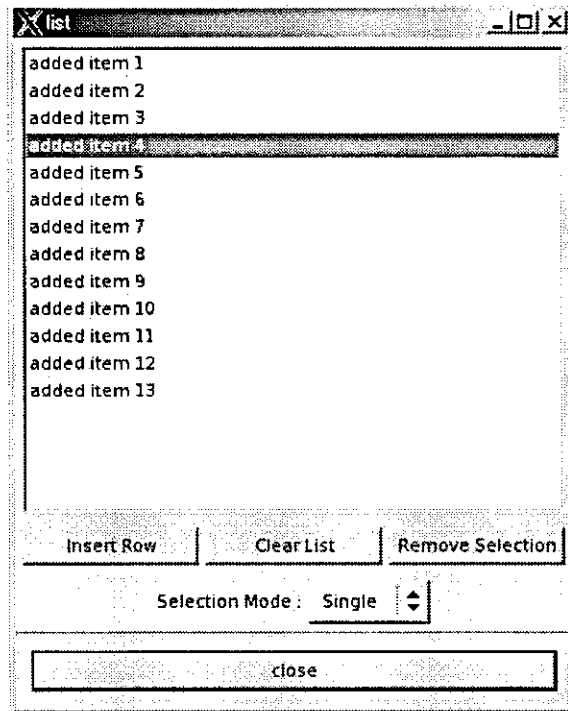


図 31.1 GtkList の実行例

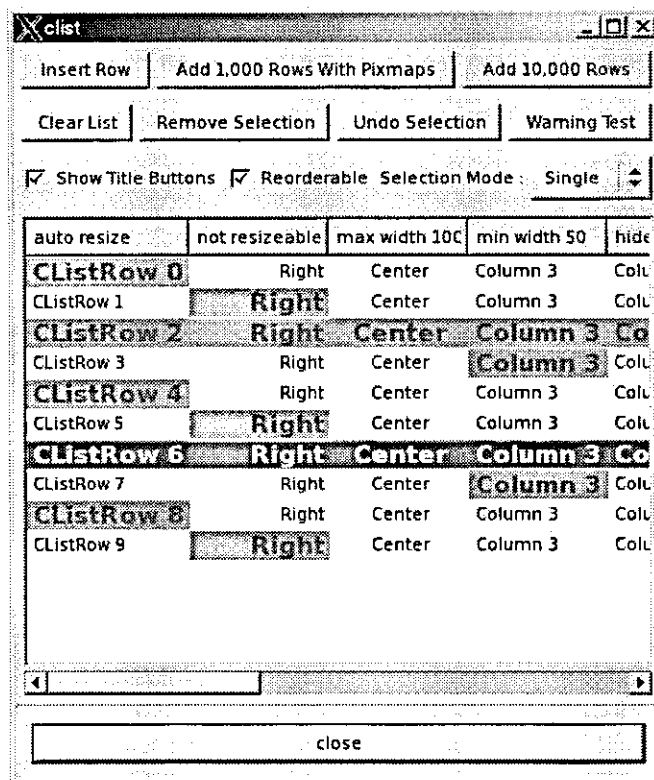


図 31.2 GtkCList の実行例

31.6 Qt: QListBox

31.6.1 説明

QListBox は選択可能な読み出し専用のアイテムのリストである。

一般に一行のリストで、選択されていないか一つだけ選択した状態にする。QListBox は必要ならスクロールバーを表示するが、あまり大きなリストには向かない。

31.6.2 スクリーンショット

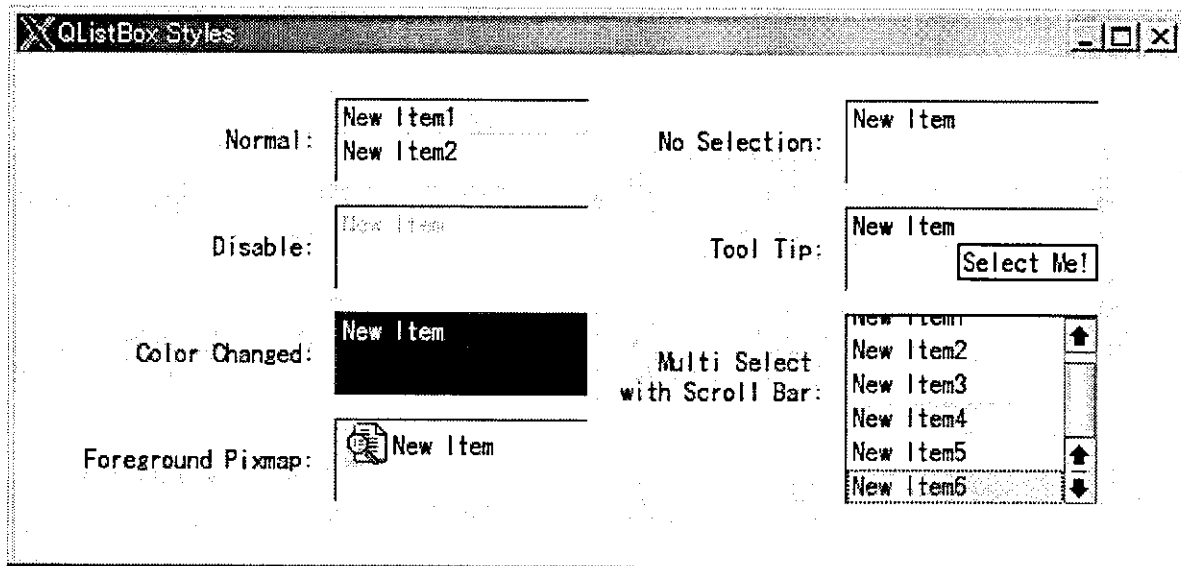


図 31.3 QListBox の実行例

31.7 KDE: KListBox, KEditListBox

31.7.1 説明

KListBox は、QListBox の KDE 対応バージョンである。

KEditListBox は KLineEdit 付きのリストボックスで、実行時のリストへ追加、削除、順序の入れ換えができる。

31.7.2 スクリーンショット

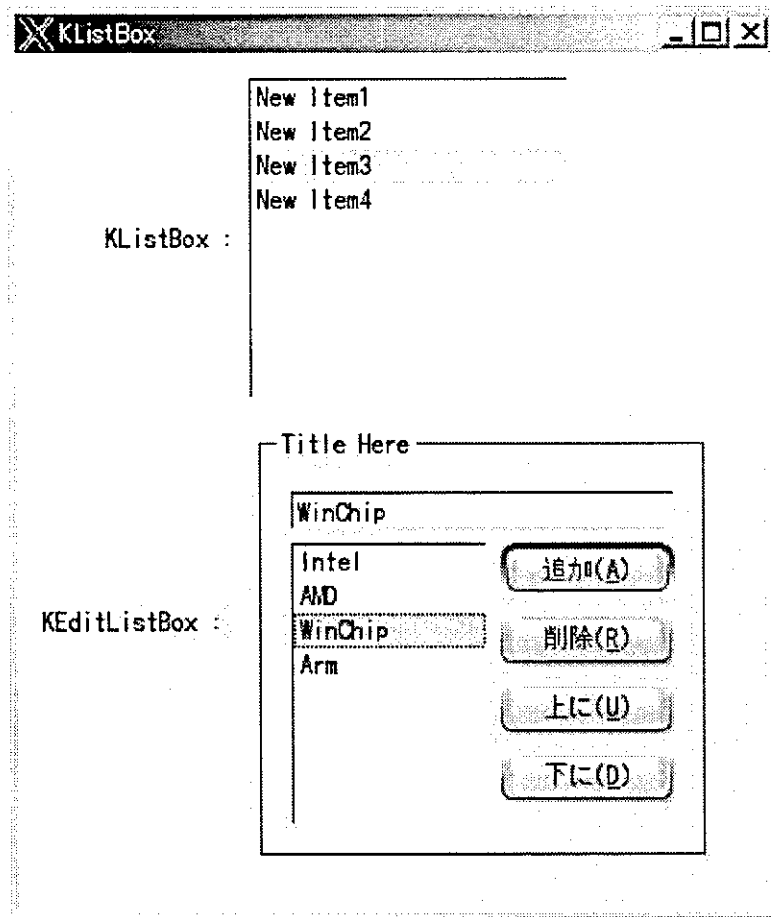


図 31.4 KListBox, KEditListBox の実行例

31.8 Swing: JList

31.8.1 説明

JList はユーザがリストから 1 つまたは複数のオブジェクトを選択するためのコンポーネントである。

31.8.2 スクリーンショット

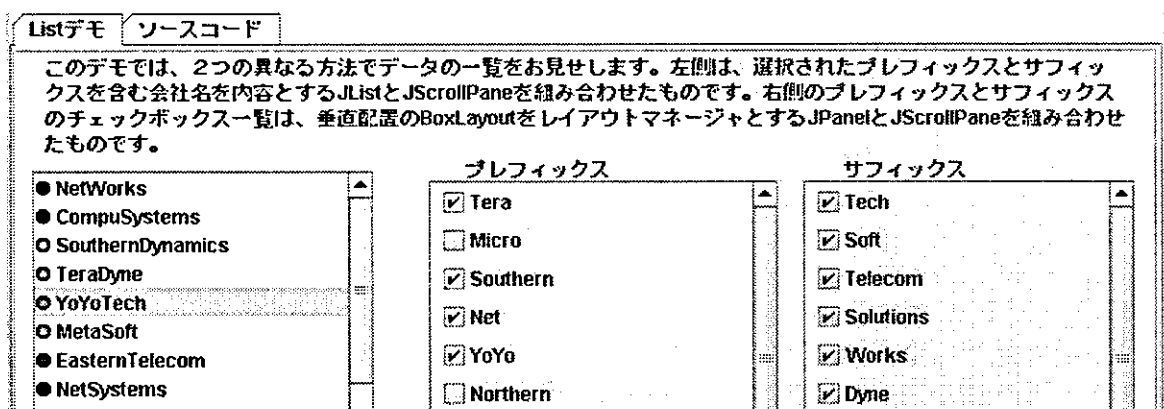


図 31.5 JList の実行例 (SwingSet2 の実行画面より)

31.9 Gecko: nsListBox

31.9.1 説明

31.10 XForms: <xforms:select appearance="compact">, <xforms:select1 appearance="compact">

31.10.1 説明

<xforms:select>タグはフォーム上の複数選択フィールドを想定したタグである。選択項目には<xforms:choices>タグを使用する。<xforms:select1>タグはフォーム上の単一選択フィールドを想定したタグである。選択項目には<xforms:choices>タグを使用する。ただし、これを一般に言うリストボックスで表現するかどうかは実装者の解釈に依存する。

ただし、これを一般に言うリストボックスで表現するかどうかは実装者の解釈に依存する。Chiba では、<xforms:select1 appearance="compact"> とすると、単一選択可能なリストボックスに、<xforms:select appearance="compact"> とすると、複数選択可能なリストボックスになる。

31.10.2 スクリーンショット

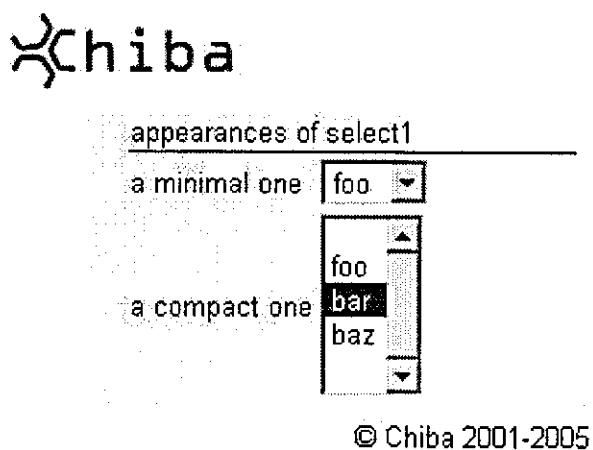


図 31.6 <xforms:select1>の実行例 (Chiba のサンプル実行画面より)

第 XI 部

グラフィックスを扱うコントロールの比較

第 32 章

ピクチャーボックス

32.1 概要

ピクチャーボックスは、ビットマップやアイコンなどのグラフィカルファイルをフレーム内に表示するユーザーインタフェース要素である。

プラットフォーム	ツールキット	コントロール
Windows	Windows Controls .Net Windows Forms Visual Basic 6	PictureBox Image
Mac OS X	Carbon Cocoa	NSImageView
X11R6	GTK+ GNOME Qt KDE	GtkPixmap GtkImage QImage KImageFilePreview
Java	AWT Swing SWT	JLabel
Mozilla	Gecko	
Web	HTML XForms	 <xforms:output appearance="image">

32.2 .NET: PictureBox

32.2.1 説明

PictureBox コントロールは、ビットマップやアイコンなどのグラフィカルファイルをフレーム内に表示する。以下、.NET Framework 開発者ガイドより抜粋。

Windows フォームの PictureBox コントロールを使用すると、ビットマップ、GIF、JPEG、メタファイル、またはアイコンの形式でグラフィックスを表示できます。

表示されるピクチャは、実行時またはデザイン時に設定できる Image プロパティによって決まります。SizeMode プロパティでは、イメージとコントロールを相互に調整する方法を制御します。

32.3 Visual Basic 6: Image

32.3.1 説明

Image は、ビットマップ、アイコン、メタファイル、拡張メタファイル、JPEG ファイル、および GIF ファイルのグラフィックスを表示することができる。

32.4 Cocoa: NSImageView

32.4.1 説明

NSImage クラスのオブジェクトを表示する。

32.5 GTK+: GtkPixmap, GtkImage

32.5.1 説明

GtkPixmap はグラフィカルな画像やアイコンを表示するユーザーインターフェース要素である。

GtkImage は、グラフィカルな画像を表示するユーザーインターフェース要素である。

32.5.2 スクリーンショット

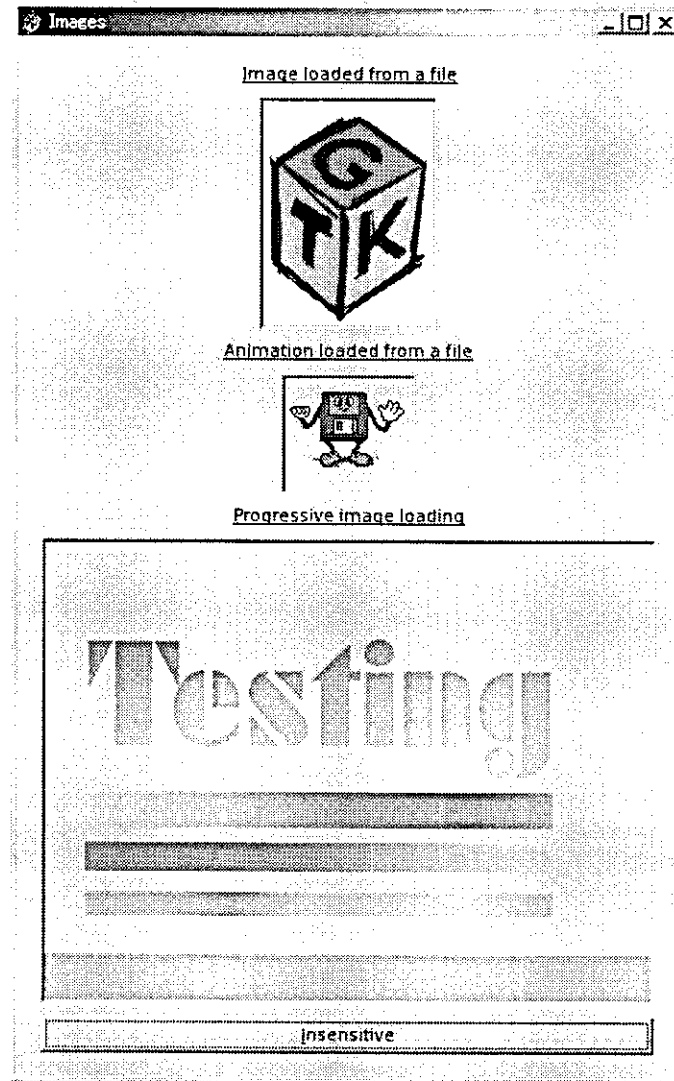


図 32.1 GtkImage の実行例 (gtk-demo の実行結果より)

32.6 Qt: QImage

32.6.1 説明

ピクセルのデータに直接アクセスする、ハードウェアに依存しない pixmap 表示方法である。

32.7 KDE: KImageFilePreview

32.7.1 説明

KImageFilePreview は URL などで指定した画像ファイルのプレビューができるユーザーインターフェース要素である。

32.7.2 スクリーンショット



図 32.2 KImageFilePreview の実行例

32.8 Swing: JLabel

32.8.1 説明

短いテキスト文字列やイメージの表示領域です。

32.9 HTML:

32.9.1 説明

 タグはフォーム上に画像を表示する。

32.10 XForms: <xforms:output appearance="image">

32.10.1 説明

<xforms:output>タグはフォーム上に文字やイメージを表示することを想定したタグである。ただし、これを一般に言うピクチャボックスで表現するかどうかは実装者の解釈に依存する。Chiba では、<xforms:output appearance="image"> とすると外観がピクチャボックスのようになる。

32.10.2 スクリーンショット

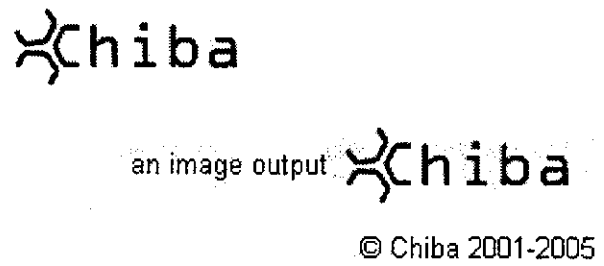


図 32.3 <xforms:output appearance="image">の実行例 (Chiba のサンプル実行画面より)